

令和元年6月14日現在

機関番号：32702

研究種目：基盤研究(B) (海外学術調査)

研究期間：2015～2018

課題番号：15H05172

研究課題名(和文) ブラジル日本人入植地の歴史民俗学的研究

研究課題名(英文) A Historico-Ethnographic Study of a Japanese Colony in Brazil

研究代表者

佐野 賢治 (Sano, Kenji)

神奈川大学・経済学部・教授

研究者番号：90131127

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 10,650,000円

研究成果の概要(和文)：サンパウロ州レジストロ市は、日本からの早期の移住者が開拓した植民地から発展した。本研究の数次の現地調査では、レジストロ植民地内に残存する日系人建築の実測データや共同墓地の区画データが収集され、関連する生活情報とあわせて記録化された。また、同地での日系宗教組織の活動や、周辺地域を含めた植民史の顕彰活動に関する情報、戦前の自治組織に関する情報、植民地開設に関するブラジル側史料、レジストロ周辺地域から更に派生した植民地に関する史資料、沖縄系移住者の文化に関する情報が収集され、分析された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究には、民俗学が日本国内および東アジア研究で培ってきた研究視角と調査手法をブラジル日系社会へ適用することで日本民俗学の対象地域を拡張するという学術的意義があり、レジストロの日系人組織の郷土史編纂事業に助力し且つその事業を日本に紹介するという社会的意義がある。

研究成果の概要(英文)：The city of Registro, Sao Paulo, has developed from an early Japanese colony. Successive field visits resulted in architectural data of the surviving houses built by Japanese settlers and informed data of the cemetery plots in the city grave yard. During the fieldwork, communal activities of religious organizations in Japanese tradition, local historical monuments and their related celebrations, and cultural activities of the settlers of Okinawan descent were observed and recorded. Historical materials regarding self-governing organization of early Japanese settlers and a further organizational development to another Japanese colony, and Brazilian governmental documents on the establishment of the Registro colony were collected and analyzed.

研究分野：民俗学

キーワード：ブラジル 日系人 海外移住史 民俗 墓 建築

### 1. 研究開始当初の背景

本研究に先行する科研費挑戦的萌芽研究「ブラジル日系移民および在日日系ブラジル人の民俗学的研究」(平成24～25年度)において、研究代表者は、サンパウロ州レジストロ市に残存する戦前に竣工した日系移民の家屋および他の建築遺構を巡見し本格的な調査の可能性を確認した。巡見には現地の日伯文化協会の協力があり、建築以外にも各種行事や生活誌、ライフヒストリーについても調査協力を得られる見通しを得たことから、レジストロを主要な調査対象地とする本研究を計画した。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、日本民俗学の対象地域を海外へと拡張することに置かれた。民俗学が国内および東アジア研究で培ってきた研究視角と調査手法のブラジル日系移民社会への適用である。日本と大きく異なる環境で暮らす日系移民たちは「日本文化」とどのような関係を取り結ぶことになったのか。この問いに答えるために、住居建築や生活用具、民俗伝承といった具体的な文化表現の組織的な記録化をすすめた。日本人入植地の郷土史編纂に協力しつつ、そこに浮かび挙がる「日本文化」を把握し、日本民俗学が蓄積してきた日本の文化研究と照らし合わせ、日本人の自画像の描かれ方の変差を提供することを目指した。

### 3. 研究の方法

神奈川大学日本常民文化研究所の所員を中軸に、民俗学や建築学、近代史の専門家を加えた共同研究組織を立ち上げ、サンパウロ州レジストロ市を主要な調査地としつつも、同州の他の日本人入植地やサンパウロ市内の日系人集住地において建築物の測量や高齢者からの聞き取りによる現地調査をおこなった。記録化にあたっては、ドローン空撮による地図制作や三次元CADによる作図といった技術を積極的に導入した。資料と関連情報の収集は国内の学術機関や移民母地でも適時おこなった。研究会を継続的に開催し共同研究参加者の調査報告による情報共有とともに、組織の外部からも特定分野の専門家を招き調査地を理解するのに必要な情報を補充した。

### 4. 研究成果

現在のサンパウロ州レジストロ市は、1910年代に後の海外興業株式会社による分譲入植地として開発された。近隣のジュポブラおよびセッテパラスと合わせイグアッペ植民地とも呼ばれ、日本からの早期の植民地としてブラジル移殖民史において独特の位置を占めている。本研究では、(1)数次にわたる現地調査によってレジストロの歴史と民俗に関する史資料と関連情報が収集された。また、(2)この現地調査を通じて、現地の日系人を中心にすすめられている郷土史編纂との連携が深まり、継続的な共同作業の基盤が確立された。

#### (1) 現地調査

レジストロ郊外の日本人入植地には戦前期に竣工した複数の日系移民家屋が残存している。これらのうち保存状態の良好なものをサンプルとして選定し、構造も含めた専門的な実測調査をおこなって三次元CAD復元図に十分な精度の実測データを収取した。レジストロ市内の集団墓地では、入植以来の日本人家族の墓が大半を占めている。集団墓地全体を俯瞰する空撮写真に基づいて正確な墓地区画図面を作成し、埋葬者に関する補足情報を収集した。

レジストロの日系人にはキリスト教が普及している一方で、本願寺が置かれ、集団的な慰霊行事には仏教や他の日系宗教組織の関与が大きい。慰霊行事の見学および参加者からの聞き取りにより、日系宗教の活動についての情報を収集した。

レジストロの旧海外興業精米所を改築した日系移民資料館を筆頭に、現地の日系人がイグアッペ植民史を顕彰する複数の記念物がある。将来の顕彰事業も念頭に置いて、これらの記念物に関する情報を収集した。

入植時のレジストロは日本語を常用する日本人のムラであったが、戦争を機に大きく変貌した。入植地での日本語教育を焦点にしてこの変化を跡づける現地自治組織の史料と聞き取りによる関連情報を収集した。

海外興業の植民事業史にはすでに研究の蓄積があるが、日本側史料に基づいた研究が大半であった。そこでサンパウロ市の公文書館などからブラジル側の史料を発掘し、一部は邦訳を作成した。

イグアッペ植民地の入植者の一部が先導してサンパウロ州アリアンサに独特の植民思想を掲げた植民地が設立された。この発展の背景となった力行会の活動についてアリアンサでの聞き取りによる情報収集と力行会(東京)での関連資料の収集をおこなった。ブラジル日系人のなかで大きな割合を占める沖縄系移殖民について、レジストロおよびサンパウロ州内の集住地区にて、他府県出身者とは異なる墓制や位牌についての情報を収集した。

サンパウロ市内に韓国・朝鮮人集住地区があり、日本人移殖民との比較を念頭にその

歴史と現状についての情報を収集した。

これらの現地調査で収集された情報を補うために、サンパウロ人文科学研究所の宮尾進資料(サンパウロ市)の一部や国立国会図書館憲政資料室の松村栄治資料(東京)を複写収集し、海外移住資料館図書資料室(横浜)、海外移住と文化の交流センター蔵書(神戸)、鳥居龍蔵記念館(徳島)にて情報収集をおこなった。また、明治村(犬山)ではレジストロからの移築展示家屋の修復があり、修復作業の確認、担当者の招聘により部材等を含めた日系移民住宅の情報を収集した。

## (2) 現地との連携

2013年に開設100周年を迎えたイグアッペ植民地では、戦前期の生活の記憶が急速に失われている。本研究では、レジストロ日伯文化協会を拠点に現地の有志が日本居住の協力者を得てすすめている郷土史編纂事業を日本に紹介し、この事業から学ぶために、有志を招聘した3回の公開研究会を開催した。この交流を通じて現地有志との共同作業の基盤が確立され、継続的な研究連携がすすんでいる。

本研究の調査によって収集されたデータは、学会および公開研究会、雑誌論文として適時発表されたが、上記の郷土史編纂事業の成果と合わせて最終的な出版を計画している。

## 5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計15件)

- (1) 森幸一「ブラジルの宗教状況覚書-国民国家・国民観との関連において-」、『比較民俗研究』第33巻、193～221頁、2019年、査読無し。
- (2) 森武磨「ブラジル移民から満州移民へ-信濃海外協会を対象として-」、『比較民俗研究』第33巻、222～251頁、2019年、査読無し。
- (3) 田中和幸「レジストロにおける戦前竣工の日系移民住宅について-沖山スズ邸に見る木造の架構形状に関する一考察-」、『比較民俗研究』第33巻、252～263頁、2019年、査読無し。
- (4) 須崎文代「レジストロにおける戦前竣工の日系移民住宅について-調査報告と沖山剛造邸の特徴を中心として-」、『比較民俗研究』第33巻、264～276頁、2019年、査読無し。
- (5) 泉水英計「レジストロ植民地第五部学校の同窓会」、『比較民俗研究』第33巻、276～284頁、2019年、査読無し。
- (6) 角南聡一郎「レジストロにおける日系人墓標とその周辺(3)」、『比較民俗研究』第33巻、285～289頁、2019年、査読無し。
- (7) 永井美穂「ブラジル日系社会の歴史を伝える手段についての一考察」、『比較民俗研究』第33巻、290～297頁、2019年、査読無し。
- (8) 森武磨「アリアンサ・ブラジル移民と力行会-ブラジル力行会100周年集会に参加して-」、『比較民俗研究』第32巻、178～195頁、2018年、査読無し。
- (9) 佐野賢治「宗教施設と葬墓制-レジストロ本願寺のことなど」、『比較民俗研究』第32巻、196～201頁、2018年、査読無し。
- (10) 角南聡一郎「レジストロにおける日系人墓標とその周辺(2)」、『比較民俗研究』第32巻、202～204頁、2018年、査読無し。
- (11) 永井美穂「日系社会の歴史を伝えていく方法-イグアッペとレジストロを事例として-」、『比較民俗研究』第32巻、205～206頁、2018年、査読無し。
- (12) 森武磨「アリアンサ調査報告」、『比較民俗研究』第31巻、217～219頁、2017年、査読無し。
- (13) 黒瀬郁二・永井美穂「ブラジル側資料からイグアッペ植民地像を検証する」、『比較民俗研究』第31巻、208～211頁、2017年、査読無し。
- (14) 小熊誠「ブラジル沖縄系移民の系譜意識と祖先観」、『比較民俗研究』第31巻、219～221頁、2017年、査読無し。
- (15) 角南聡一郎「レジストロにおける日系人墓標とその周辺」、『比較民俗研究』第31巻、211～217頁、2017年、査読無し。

[学会発表](計4件)

- (1) 田中和幸・渡邊裕子・須崎文代・内田青蔵「ブラジル連邦共和国レジストロ市における戦前に竣工した日本人の移民住宅(その4)六川邸から見る大壁造りの窓枠形状について」、『日本建築学会関東支部2018年度研究発表会、2019年。』
- (2) 田中和幸・渡邊裕子・須崎文代・内田青蔵「ブラジル連邦共和国レジストロ市における戦前に竣工した日本人の移民住宅(その3)沖山スズ邸の現状と架構形状について」、『2018年度日本建築学会大会、2018年。』
- (3) 渡邊裕子・須崎文代・田中和幸・内田青蔵「ブラジル連邦共和国レジストロ市における戦前に竣工した日本人の移民住宅(その2)天谷邸の現状と推定復元について」、『日本建築学会北海道支部第91回研究発表会、2018年。』

(4) 須崎文代・田中和幸・渡邊裕子・内田青蔵「ブラジル連邦共和国レジストロ市における戦前に竣工した日本人の移民住宅(その1) 沖山剛造邸の現状と窓枠の形状について」、日本建築学会北海道支部第91回研究発表会、2018年。

〔その他〕

ホームページ等

<http://jominken.kanagawa-u.ac.jp/research/Brazil/>

## 6. 研究組織

### (1) 研究分担者

研究分担者氏名：内田 青蔵

ローマ字氏名：Uchida Seizo

所属研究機関名：神奈川大学

部局名：工学部

職名：教授

研究者番号(8桁)：30277686

研究分担者氏名：泉水 英計

ローマ字氏名：Sensui Hidekazu

所属研究機関名：神奈川大学

部局名：経営学部

職名：教授

研究者番号(8桁)：20409973

### (2) 研究協力者

研究協力者氏名：森 幸一

ローマ字氏名：Mori Koichi

研究協力者氏名：森 武麿

ローマ字氏名：Mori Takemaro

研究協力者氏名：田中 和幸

ローマ字氏名：Tanaka Kazuyuki

研究協力者氏名：須崎 文代

ローマ字氏名：Suzaki Fumiyo

研究協力者氏名：角南 聡一郎

ローマ字氏名：Sunami Soichiro

研究協力者氏名：永井 美穂

ローマ字氏名：Nagai Miho

研究協力者氏名：黒瀬 郁二

ローマ字氏名：Kurose Ikuji

研究協力者氏名：小熊 誠

ローマ字氏名：Oguma Makoto

研究協力者氏名：渡邊 裕子

ローマ字氏名：Watanabe Yuko

研究協力者氏名：加藤 里織

ローマ字氏名 : Kato Saori

研究協力者氏名 : 李 徳雨  
ローマ字氏名 : Mori Takemaro

研究協力者氏名 : 米田 誠司  
ローマ字氏名 : Yoneda Seiji

研究協力者氏名 : 福澤 一興  
ローマ字氏名 : Fukuzawa Kazuoki

研究協力者氏名 : ルーベンス シミズ  
ローマ字氏名 : Rubens Shimizu

研究協力者氏名 : アケミ ヒジオカ  
ローマ字氏名 : Akemi Hijioka

研究協力者氏名 : ブルーノ ヒサツグ  
ローマ字氏名 : Bruno Hisatsugu

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。